

脳とこころ

御栗鷹に遡った科学者

拡張される神経科学の技術や世界は、今や決して研究室の中だけに留まらないうちに、着実に実生活に、着実に恩恵や変化を与えている。

西毛地域の80代女性は数年前、両耳が突然聞こえなくなった。補聴器では聴き取れないほどの聴覚の失聴。筆談でしか意思疎通できなかった。商店を営み、客との会話を生かすのが得意だった。提案された人工内耳。脳内に機器を埋め込み、音を直接、神経細胞に届ける仕組みだ。人工内耳。脳内に機器を埋め込み、音を直接、神経細胞に届ける仕組みだ。人工内耳。脳内に機器を埋め込み、音を直接、神経細胞に届ける仕組みだ。



第3章 拡張⑩

聞こえないと認知症のリスクが高まるという研究があるという。社会的な関わりが減るのが大きい。人工内耳を利用する人は増えるのではと御任、手前は人工内耳の機器

聞こえないと認知症のリスクが高まるという研究があるという。社会的な関わりが減るのが大きい。人工内耳を利用する人は増えるのではと御任、手前は人工内耳の機器

人工内耳社会との絆

入り込み増 手応え

全国旅行支援開始 県内観光地が歓迎



コロナ禍で打撃を受けた地域経済の活性化策として旅行代を割引くなどする政府の「全国旅行支援」が始まり、水際対策の大幅な緩和と外国人観光客の入国規制が事実的にコロナ前の水準に戻された11日、温泉をはじめとする県内の観光地が歓迎と期待の声を相次いだ。旅行支援を早速使った観光客はほくほく顔だったが、うまく制度の恩恵を受けられなかった人もいた。

「宿泊予約はお得だし、クルマもいい。新潟県から草津温泉(草津市)を訪れた70代の4人組は旅行支援の開始日に合わせて宿泊先を予約した。湯畑のライトアップやホテルの食事を楽しみたい。」

一方、埼玉県の60代女性は数日前、旅行会社からのメールで「10月3日以前に入れた予約は適用外」と知らされた。支援を受けられ

「喜びの宿 高松」(同町)はタイや台湾、シンガポールなど東南アジアの個人客からの予約や問い合わせが目立つという。「日本旅館の風情や温泉文化、雪景色など、草津は外国人に売込みのポイントが多い。インバウンドの宿泊は、4〜8月の入り込み客数は、年間約327万人で最多だった2019年度の同時期の9割に回復した。福田俊介事務局長は「県民割と違い、東京からの観光客が増えるのが大きい。年

東京五輪・パラリンピックで南入・タン陸上競技選手

前橋市が寄付などを原資に設立方針を示していたまちづくり推進基金について、市は11日、共同推進型まちづくりファンド「市アーバンデザインファンド」を立ち上げ、第一弾の助成先として、前橋デザインコミッション(MDC)同市本町が市街中心街を取り組む馬場川通り改修事業を選定したと発表した。

ファンドの原資は、同市の企業経営者らでつくるまちづくり支援団体太陽の会(会長・田中仁志ンスホールディングスCEO)の寄付金1億円と、ファンドを共同設立した民間都市開発推進機構(東京都)の拠出金1億円の計2億円。

今後、市の広報や交流サイ

この症例を含め20例を手がけた。1歳児も含む。人工内耳と補聴器の違いは何か。御任の説明を基に

「やって良かったよ」と言われました。医師「真利につきます」。手術した群馬大学大学院医学系研究科助教、御任一光(35)は伊勢崎市出身。伊勢市の後ろを切開して頭蓋骨の一部を削り、音の受信機と、蝸牛を直接刺激する電極を埋め込む。髪を剃ることは、今はほめない。

患者はまた、外界の音を聞き取り、脳に伝える仕組みが、人工内耳手術で100%の聴力が戻るわけではない。一線は難聴と向き合う御任はその先を見通す。「今は機器の改良が主体だが、脳研究がさらに進めば、脳の聴覚野を直接刺激して、音が認識できる仕組みもできるかもしれない」(敬称略)

コロナ前の水準に戻りつつあり、田安も追い風だ」と手応えを感じ取る。

四万温泉(中之条町)には旅行支援を活用したとみられる親子連れが訪れていた。四万温泉協会の宮崎博行事務局長は「外国人は初めて東京に近い熱海や箱根を目指すと。冬には四万に足を伸ばしてくれれば」と今後を期待した。

伊香保温泉(渋川市)の石段街には11日、連休明けにもかかわらず一定の人数があった。関川伊香保温泉観光協会の関川征治会長は「田安を生かし、観光客を輸出産と捉えて外国人観光客を呼び込みたい」と意欲を見せた。

わたらせ渓谷鉄道の品川町(社長は「インバウンド消費に大いに期待している。ただ、地方も効果波及するのには時間がかかるのではないか。すでに始める企画はないが、準備しておきたい」と話した。

(まとも 高野聡)



協定を結んだ(左から)アバカール氏と山本市長

新市民体育館の愛称 「オープンハウスアリーナ・オオタ」

太田市、命名権3年契約

来春完成予定の新太田市市民体育館のネーミングライツ(施設命名権)について、市は11日、スポンサー企業がオープンハウス・ディベロップメント(東京都)、愛称が「オープンハウス・アリーナ・オオタ」に決まったことを明らかにした。

契約は来年4月1日から3年間で、契約金額は年間1千万円(税抜き)。7月、事務所の吉田祐樹さんらも同席した。

山本市長は「JICAの応援をいただきながら、これからも友情を育みたい」とあいさつした。アバカール氏は「東京五輪とその後の継続的な支援、平和促進プロジェクトによる体力向上への尽力に感謝する」と述べた。

JICAによると、同国一行は20日まで日本に滞在する予定。11日はサッカーの「スポーツを通じた平和促進プロジェクト」の一環で来日している同国青年スポーツ省のビクター・パブリス・アバカール事務次官(70)と山本龍市長が同日、市役所で協定書を調印した。JICA南スーダ

1日〜8月5日に公募を実施し、同社が応募した。同体育館はバスケットボール男子Bリーグ1部(B1)群馬クレインサンダーズのホームアリーナとして建設中。同社はチームのオーナー企業、オープンハウスのグループ会社で、一戸建てやマンションの開発を行っている。

同体育館を核としたまちづくりの調査研究や企画立案などの委託先に、プロスポーツチームのマーケティングや営業戦略支援などを手がけるスポーツマーケティングインフララボ(東京)を選んだことも明らかにした。公募型プロポザル方式で決めた。本年度末までに調査書をつくり、来年度事業に反映する。

いずれも11日の市議会市民文教委員会協議会で報告した。(中村穂高)

前橋市がまちづくりファンド 馬場川通り改修助成1号

山本市長(右から5番目)から感謝状を受け取る太陽の会メンバー

ト(SNS)などを通じて一般企業や市民からも寄付を募る。ふるさと納税の活用も検討する。

市街地整備課によると、MDCはファンドが助成する2億円と、太陽の会が別に寄付した2億円の計4億円を活用し、遊歩道公園と車道の一体的な再整備を進める。今月中に着工し、2023年11月に完了する予定。通りの維持管理やイベント開催なども取り組む。

市は同日、太陽の会に感謝状を贈呈した。山本市長は「公共事業を民間が運営するモデルになるような取り組み。お礼を申し上げます」と述べた。

(栗原綾菜)

2022 10月23日(日) 上毛新聞フェスタ

遊んで、学んで、楽しんで

参加無料 要事前申し込み

定員500人

藤岡市 みかほみらい館 (藤岡市藤岡 2728)

新聞を考えよう! パネルディスカッション

上毛新聞記者と地元高校生も登場!

MC エフエム群馬パーソナリティー 内藤 聡さん

パネリスト: 渡辺秀人さん (株) 渡辺広報事務所代表取締役 サントリーでマーケティング・広報部門などを経て、2015年に同事務所設立。新聞を愛読し、新聞と真摯に向き合う勝手連「新聞党」代表。

豪華賞品が当たる! お楽しみ抽選会

1等 ダyson空気清浄機能付ファンヒーター (40,000円相当x1本)

2等 お買い物商品券 (10,000円相当x3本)

3等 スイーツセット (3,000円相当x6本)

4等 クオカード 500円分 (約50本)

※参加者にはもちろんビュルングッズプレゼント!

当日会場の上毛新聞購読(3カ月以上)をお申し込みの方には

応募先・問い合わせ先 上毛新聞読者局地域交流部「上毛新聞フェスタ」係

メール: jp-kouken@raijin.com

〒371-8666 群馬県前橋市古市町1-50-21 TEL: 027-251-4341

(土日祝を除く、午前9時~午後5時)

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況で、イベントが急遽中止となる場合があります。